

# 2001年度 原子核三者若手 夏の学校 三者総会議案書(改訂版)

編集：2001年度 三者事務局(東京大学)

## 目次

<b>1</b>	<b>2001年度 三者準備校(東北大学)</b>	<b>1</b>
1.1	活動報告	1
1.2	現時点での決算報告	3
1.3	旅費の補助	4
1.4	その他	4
<b>2</b>	<b>2001年度 三者センター校(大阪大学)</b>	<b>5</b>
2.1	活動報告	5
2.2	会計報告、承認	6
2.3	新たな援助申請	11
2.3.1	RCNP に交渉する場合の手順について	11
2.3.2	「しっかりした請求」の意味	11
2.3.3	共催化に伴って	12
<b>3</b>	<b>2001年度 三者事務局(東京大学)</b>	<b>12</b>
3.1	活動報告	12
3.2	会計報告	13
3.3	承認(役職校)	13
3.4	要請	13
3.5	承認(三者総会の開催地)	14
<b>4</b>	<b>2001年度 三者名簿校(大阪市立大学)</b>	<b>14</b>
4.1	活動報告	14
4.2	会計報告	14

5	ワーキンググループの設置 [京都大学]	15
5.1	要旨	15
5.2	現状の問題点	15
5.3	ワーキンググループの詳細	16
6	繰越金問題 (改訂版)[京都大学]	16
6.1	繰越金の適正金額	17
6.2	繰越金の存在の公表	17
6.3	今後の方針	18
7	繰越金問題 (改訂前)[京都大学]	19
7.1	概要	19
7.2	現状の問題点	20
7.3	提案	21
	全額を公表する。	21
	例年通りの援助金額を申請する	21
	繰越金の使い道	22
7.4	承認事項	22
7.5	最後に：アンケートご協力をお願い	23

Last Updated: July 08, 2001 / Version 1.2

## 1 2001年度 三者準備校 (東北大学)

文責：赤間尚之、柿崎充 (東北大学)

### 1.1 活動報告

#### 1. 2001年度原子核三者若手夏の学校

- 開催場所：長野県下高井郡木島平村上木島「パノラマランド木島平」
- 開催期間：8/1(水)～8/7(火)
- 参加人数：276人(7月6日現在)
- 参加費：3,000円、1泊3食で5,250円

## 2. 主な活動

- 2000年7月：昨年度夏の学校参加、下見・仕事確認、ホテルとの交渉
- 2000年9月：秋の学会三者総会、会場と日程決定
- 2001年1月：仮契約
- 2001年2月：ポスターデザイン
- 2001年3月：春の学会三者総会
- 2001年4月：学会協賛を得る
- 2001年5月：パンフレット作成
- 2001年6月上旬：本契約、ポスターの発注
- 2001年6月中旬：パンフレットとポスターの郵送
- 2001年6月下旬：夏の学校参加者の受付、各パート準備校との連絡・調整
- 2001年7月：夏の学校準備業務(部屋割り等)

## 3. 学会協賛

日本物理学会に協賛をお願いし、今年も協賛を得ることが出来た。

## 4. ポスター

ポスターは200部作成した。印刷は基研に委託し、ポスター印刷代として基研から援助されている金額100,000円内で基研が調整し印刷した。実際にポスター印刷にかかった金額は46,200円であった。余った金額は基研に返却されることになる。安くあげても「ポスター印刷代」として基研からいただいているので、われわれの繰越金にはならず、返却する。

今年度も昨年度同様基研、学会の両協賛が得られたので、ポスターにそれを記載した。

発注寸前になっているいろいろな問題が浮上し、ポスターの発注は遅れた。反省点である。具体的な問題として、

- ポスターデザインが出来上がって発注する段階になって、各パートの講義の日程(講義の順序)の確認をし忘れていたことに気づいたこと。
- ポスター原版はパソコン上で作ったのだが、解像度が低かったため、試し刷り後のポスターは非常に粗いものになり、作り直したこと。

があった。

## 5. 予約受け付け

Webによる予約受け付けは、1998年度の準備校の東大で開発され、1999年度の準備校の九州大で改良された自動予約受け付けシステムを、東北大学の素粒子論研究室用に調整した。特に改良は行なっていない。素粒子論研究室のサーバを借りたが、セキュリティ上かなりの問題がある。今後三者準備校を受け継いでいく過程でその問題をきっちり受け継いで、来年度以降のWebによる受け付けで問題を認識しつつ運営する必要があるだろう。

申し込みは自動受け付けシステムと郵送の2通りで行なった。

## 1.2 現時点での決算報告

まだ、夏の学校が終了していないため、分からない部分が多い。

### 1. 準備校活動費

#### 収入の部

項目	予算	決算
センター校より	130,000	130,000
計	130,000	130,000

#### 支出の部

項目	予算	決算
下見・契約代	35,000	28,590
郵送料	35,000	26,320
コピー代	50,000	0
文具代	10,000	1,482
手数料等	0	未定
計	130,000	56,392

- 手数料において、キャンセル分の手数料は各自に負担してもらう予定である。

#### 残高の部

$$\text{残高} = \text{収入} - \text{支出} = 130,000 - 56,392 = 73,608 \text{ 円}$$

- 残高はセンター校に返すことになっている。

## 2. ホテルの前金

$$\text{残高} = \text{収入} - \text{支出} = 100,000 - 100,000 = 0 \text{ 円}$$

- ホテルの前金が必要であるため、センター校より 100,000 円借りた。まだ返していない。夏の学校終了後に返すつもり。

## 3. ポスター製作費

$$\text{残高} = \text{収入} - \text{支出} = 100,000 - 46,200 = 53,800 \text{ 円}$$

- 基研からポスター製作費として 100,000 円頂いた。余ったお金は基研に返却しなければいけないため、どんなに安い料金で製作しても我々の得にはならない。そこで、なるべくお金を使うよう努力してみたが、結局半額も使えなかった。ちなみに残金は既に返した。

予算は余りが出ないように低めに申請したつもりであったが、結果的に余りが出そうである。今後考えられる出費としては、参加者に配布する印刷物(アンケートなど)の印刷代、印刷物を入れる封筒代などの文具、会場に使う機材(OHP、スクリーン、黒板)のリース代などが考えられる。

リース代については三者準備校の認識不足で、予算申請しなかった。今回は契約代または文具代に含める。

## 1.3 旅費の補助

参加者から頂いた参加費は夏の学校運営費と旅費の補助に使われる。今年度は昨年までと違い、夏の学校終了後に補助額を決定する。どのような金額配分になるかは未定。検討中である(7月8日現在)。

## 1.4 その他

三者準備校の仕事を受け持ったが、その感想を述べておく。来年度以降の参考にしたい。

### 素粒子パート 分割化

今年度から素粒子パートでは役職校として「講義録作成校」が新たに新設され、講師の決定もこれら「講義録作成校」が受け持つコトになった。今年からはじめて行なわれていたのていろいろ慣れない部分もあっただろうが、三つの素粒子パート役職校と三者役職校のあいだの連絡はあまりスムーズには進まなかった印象を受ける。その辺は今後の課題となると思われる。

### 開催時期について

大まかな開催時期については事前にホテルに連絡してあったが、具体的な日程については三者準備校で勝手に決めてしまった。このやり方はあまり妥当なやり方だったとは言えない。

本契約時、さまざまな細かい事項についての打ちあわせを行なったが、その際、開催時期について少しホテル側の事情を尋ねてみた。こちらの決定に対してホテル側は「問題ない」と言ってくれ、快く受け入れてくれた。しかし事情を聞いてみると、8月に入ってからはある程度の一般宿泊客が利用する見込みがあるらしい（具体的には2000年度の8月上旬には100名程度の一般客が宿泊したらしい）。われわれは格安の値段で泊めてもらっていることもあり、こちらがあまりに勝手に開催時期を決めた場合ホテルに大きな迷惑をかける可能性がある。その点に注意して、開催時期決定については事前にじゅうぶんにホテルと打ちあわせをする必要がある。

YONU  
July 13th, 2001

## 2 2001年度 三者センター校 (大阪大学)

文責：進藤哲央, 木村哲士 (2001年度三者センター校 大阪大学)

## 2.1 活動報告

- 2000年8月 運営開始、ss2001 立ち上げ、委任状関係アンケート集計、素粒子論グループに運営引き継ぎと窓口交代のお知らせ、共通講義見直し
- 2000年9月 予算申請提出願、一喝！、WG 報告後押し、秋の学会、緊急会議システム可決  
秋の学会における援助要請対象機関：素粒子論グループ (2000 年度報告)、原子核談話会 (7年ぶりに交渉再開)、高エネルギー研究者研究会議 (プレゼンせず)
- 2000年10月 各パート準備校への講師選定願、三者共通講義講師選定、基研との交渉開始、各研究室内部での旅費援助有無調査開始
- 2000年11月 基研研究部員会議への申請書作成、KEK への援助申請 (却下)
- 2000年12月 研究室内部旅費援助有無調査終了
- 2001年1月 基研研究部員会議出席 (可決)
- 2001年2月 RCNP との交渉開始
- 2001年3月 素粒子論グループ側窓口交代案内、WG 報告後押し、春の学会  
春の学会における援助要請対象機関：素粒子論グループ (援助可決)、原子核談話会 (講師旅費を自費で、可決)
- 2001年4月 基研講師旅費補助分配交渉開始、講師との交渉開始、レビュートーク案提出、オリエンテーション実施呼びかけ
- 2001年5月 各パート準備校の必要経費申請提出願
- 2001年6月 DC アブストラクト集作成開始
- 2001年7月 DC アブストラクト集再度提出願
- 2001年8月 決算報告のための集計開始 (予定)
- 2001年9月 秋の学会、決算報告 (予定)、終了 !!

その他、随時各役職校と連絡、業務推進願提出など (数え切れない)。

## 2.2 会計報告、承認

### 2001年度夏の学校決算見積もり(2001.7.6現在)

前年度繰越金:2,782,408円

#### 2001年度収入見込み

項目	金額
基研援助(旅費補助)	未定(max 500,000)
基研援助(ポスター印刷代)	46,200
素粒子論グループ援助	450,000
参加費(276人×3,000)	828,000
合計	1,824,200(max)

#### 2001年度支出見込み

項目	金額
講師旅費	未定(max 500,000)
三者事務局	120
三者センター校	2,320
三者準備校	156,392(うち100,000円は借金)
三者名簿校	0
素粒子パート事務局	0
素粒子パート準備校	10,000
原子核パートセンター校	0
原子核パート準備校	70,000
高エネルギーパート準備校	28,000
合計	766,832-100,000

- 報告のないもの、および未定なものは予算通りとした。



## 三者センター校（大阪大）

項目	予算	現段階での決算
振込手数料	10,000	560
コピー代	0	1,080
トラペ代	0	680
合計	10,000	2,320

## 三者準備校（東北大）

### 1. 準備校活動費

#### 収入の部

項目	予算	決算
センター校より	130,000	130,000
計	130,000	130,000

#### 支出の部

項目	予算	決算
下見・契約代	35,000	28,590
郵送料	35,000	26,320
コピー代	50,000	0
文具代	10,000	1,482
手数料等	0	未定
計	130,000	56,392

- 手数料において、キャンセル分の手数料は各自に負担してもらう予定である。

#### 残高の部

$$\text{残高} = \text{収入} - \text{支出} = 130,000 - 56,392 = 73,608 \text{ 円}$$

- 残高はセンター校に返すことになっている。

### 2. ホテルの前金

$$\text{残高} = \text{収入} - \text{支出} = 100,000 - 100,000 = 0 \text{ 円}$$

- ホテルの前金が必要であるため、センター校より 100,000 円借りた。まだ返していない。夏の学校終了後に返すつもり。

### 3. ポスター製作費

$$\text{残高} = \text{収入} - \text{支出} = 100,000 - 46,200 = 53,800 \text{ 円}$$

- 基研からポスター製作費として 100,000 円頂いた。余ったお金は基研に返却しなければいけないため、どんなに安い料金で製作しても我々の得にはならない。そこで、なるべくお金を使うよう努力してみたが、結局半額も使えなかった。ちなみに残金は既に返した。

## 素粒子パート 準備校 (金沢大)

録音関係費 (ビデオテープ、ノート等)	7000 円
通信関係費 (ビデオ郵送)	2000 円
研究会費 (ポスターセッションの模造紙)	1000 円
合計	10000 円

(捕捉)：予算は 40000 円いただいておりますが、ビデオカメラ等の備品を金沢大学から持ち込みますので、その分のレンタル代が節約できそうです。この分だと、30000 円程使い切れない事態が発生しますので、残金の使い道についてパート総会で話し合おうかと考えています。

なお、予算管理は金沢大学の中谷が一括して行ない、他の講義録作成担当校 (大阪大、茨城大) の方で特に出金が発生した場合、事後清算という形をとることになっています。

## 原子核パート 準備校 (京都大)

Review Talker への謝金 (交通費補助)	30,000 円 (15,000 × 2)
Topics 講師への補助 (交通費・滞在費)	30,000 円
諸経費 (印刷費、ビデオテープ代)	10,000 円
計	70,000 円

# 高エネルギーパート 準備校（奈良女子大）

講義準備費	20,000 円
講義録作成費	8,000 円

残額

収入	1,824,200
支出	766,832
残高	1,057,368

- 上記の残額のほとんどが参加者の旅費補助に充てられる予定。
- 実際の残額は上記よりも増えることが予想される。

## 2.3 新たな援助申請

以下、RCNP への新たな援助申請に伴って認識しておくべき文章です。これは大阪大学が RCNP の土岐さん (現センター長) と交渉した際の、土岐さんからのコメントです。

これらは 2002 年度三者センター校に頑張ってもらいたい内容です。

### 2.3.1 RCNP に交渉する場合の手順について

直接センター長 (現在は土岐さん、任期 2 年) に連絡を取る (できたらアポを取って直接会うのが望ましい) で良いそうです。

ここでとれば、グループ代表者会議、運営委員会、教授会などを経て予算執行となります。

もし、(何年か前のように) センター長にはねられた場合は、研究計画委員会 (研計委と呼んでいる) または研究企画室などを経てグループ代表者会議にかけてもらう、というバイパスがあります。

(研究企画室の連絡先は web にあります。現在は畑中先生が窓口だそうです。)

今は、センター長がお金を出すことに前向きなので、しっかりした請求が出ればセンター長から会議の方に通してくれるそうです。

### 2.3.2 「しっかりした請求」の意味

- 夏の学校の共催または後援という形でパンフレットやポスターに名前が出るようにすること。
- 他の共同利用研 (KEK、基研、宇宙線研など) にも同時に同様のお願いをすること。
- 事後報告の方法を明らかにすること
- 何を補助してほしいのかを明らかにすること

特に最初の 2 点については、一度話を通せば「昨年も共催 (後援) していただいた」ということで、次の年の援助が得られやすいはずだ、と思われまます。また、今年に関して言えば、

「今年は時間がなくて出来ないが、来年からはぜひ共催 (後援) という形で 援助していただけるように、今年の夏の学校で議論を詰める予定である」

などのように、来年以降共催(後援)の動きがあるということを示してもらった方がいい、とのことでした。あとの2つに関しては、具体的な話し合いで煮詰められればよいそうです。そのためには、事情を全て把握している人が交渉に当たることが必要です。

### 2.3.3 共催化に伴って

さて、実際、共催(後援)とした場合、夏の学校が名実ともに若手だけの行事ではなくなるということになるので、今まで以上に不祥事に対して厳しくあたる責任が生じます。でも、今後に向けて、資金のソースを分散しておくのは良いことだと思いますし、その出所を一般参加者に明らかにする意味もありますから、「パンフに名前が入るような援助」のされ方を議論するのがいいかもしれません。これに関してはマイナスよりプラスの面が多いと思われます。

また、年度の途中でも10万から20万位の補助であれば「遅かったからお金が出せない」ということはないそうです。

それから、ご存じの通り、「学生の旅費補助」という名目でお金を出すのはほぼ不可能とのことでした。

最後に、「三者若手の活動」にお金を出すよりも「夏の学校」に補助する方が通りがいいようです。

YONUPA August 6th, 2001

## 3 2001年度三者事務局(東京大学)

文責: 市川憲人(2001年度三者事務局 東京大学)

### 3.1 活動報告

- 2000年8月: 前年度事務局からの引き継ぎ
- 2000年9月~10月: 秋の三者総会の運営
- 2001年2月~3月: 春の三者総会の運営
- 2001年5月~7月: Web講義録のとりまとめ。
- 2001年6月~7月: 2003年度準備局・名簿校・ML,HP校 2004年度センター校・準備校の内定についての交渉

- 2001年7月: 役職校ローテーション参加の呼びかけ

### 3.2 会計報告

- 予算申請額

振込手数料	500
郵送費	1,000
コピー代	3,500
合計	5,000

- 2001年7月12日時点の予算使用額

振込手数料	0
郵送費	120
コピー代	4800
合計	4920

で大体トントンになっています。

### 3.3 承認(役職校)

- 以下の役職校の選定について承認を頂きたい。

2003年度三者事務局	新潟大学
2003年度 ML・HP 管理校	広島大学

2004年度の三者準備校とセンター校については秋の学会で承認を得たいと思います。

### 3.4 要請

- 引き継ぎについて

役職校の引き継ぎをスムーズにする為にマニュアルの整備を各役職校にお願いしたいです。また、問題がなければ事務局のホームページにそれらを掲載したいので、2001年度三者事務局まで送って下さい。また、引き継ぎの際にはお互いが積極的に連絡を取り合うようお願いいたします。

### 3.5 承認 (三者総会の開催地)

- 三者総会の開催地について

2001年度の秋の学会は原子核がハワイ、素粒子が沖縄で行なわれます。今回は暫定処置として沖縄で三者総会を行なうことにしました。そこで、次回以後開催地の問題が起きた場合三者総会についての情報が最も早く入る三者事務局が開催地をML等で提案し異論がなければ、その場所で開催するという形を取りたいと思います。この件について承認をお願いします。

## 4 2001年度 三者名簿校 (大阪市立大学)

文責：森下 正則 (大阪市立大学)  
morisita@ocunp.hep.osaka-cu.ac.jp

### 4.1 活動報告

#### 三者若手名簿の作成

2001年 2月 各研究室連絡責任者の更新依頼  
4月 名簿データベースの更新依頼  
5月 印刷業者の選定、名簿注文受付  
6月 名簿校正、印刷  
7月 発送

### 4.2 会計報告

以下は7/18現在までに注文を受けた名簿を全て発送した段階での報告です。

	項目	金額	備考
収入	名簿代金	222,400	400円/冊 × 556冊
	郵送料金	49,320	
	00年度繰越金	83,430	
支出	名簿印刷費	240,000	400円/冊 × 600冊
	郵送料金	51,334	冊子小包、ゆうパック
	収入 - 支出	63,816	

- 今後の新しい注文、及び乱丁、落丁に対する予備として 44 冊余っています。
- 郵送料金に関して、収入 - 支出 = -2,034 円となっています。これは 01 年度の名簿が例年より厚い紙が使われているため一冊あたり約 50g 重くなっており、送料が予定より高くなったためです。
- 2001 年度春の三者総会において、00 年度の (収入 - 支出) が多すぎる、との指摘がありました。これを受けて、01 年度は繰越金を減らす方向で運営を行いました。  
しかし毎年必ずしも安い業者が見付かるとも限らず、また乱丁落丁等を考慮して印刷すると、必ず売れ残りが出ます。今年度のように名簿の重量によって送料の収支が変化することもあります。このような事態に備えて、5~10 万円程度の繰越金を常に残しておくことに問題はないと 01 年度名簿校は考えます。

## 5 ワーキンググループの設置 [京都大学]

### 5.1 要旨

以下の理由によりワーキンググループの設置を提案する。現在、原子核三者若手には種々の問題が存在する。しかしながら、これらの問題の解決は仕事に忙殺される役職校がその合間をぬって対策を講じる程度の事しかなされていない。昨年度の夏の学校では不祥事が多発し、セクハラ対策ワーキンググループが発足した。この前例を一過性の試みとして終わらせる事無く三者若手・夏の学校の根本的解決及び改善の為に、自主的参加に基づいたワーキンググループが必要だと考えられる。このワーキンググループは、現在三者若手に存在しない規約の是非に関しても討議する。

### 5.2 現状の問題点

現在三者若手の問題点は以下のようなものが考えられる。

- 総会での決定事項が 3 , 4 年経つと忘れられてしまう。
- このため多年度に渡る計画が困難である。
- 忘れられた事項について確認議案を話し合うために余計に時間がかかる。



- 不祥事に対する対応がその年の役職校により決められ一貫性にかける。
- 該当年の役職校はこの決定に責任を持たなくてはならないので、当り障りのない対応に留まる。

### 5.3 ワーキンググループの詳細

以上のような問題意識からワーキンググループを立ち上げて、三者若手における意思決定及び規則の明文化や記録の必要性とこれらの対策に伴う不利益の可能性について話合う。

1. 議論は掲示板を設けその上で行うものとする。
2. 議論の結果規約が必要とされた場合は引き続き規約製作に移る。
3. 規約を含む何らかの対策案が出来た場合これを総会の場に提出する。
4. 規約が不要とされた場合は議論の詳細を報告し別の対策案の可能性について議論する。

現在話し合いが必要だと考えている内容は、

1. 三者若手規約の要・不要
2. 意思決定の引継ぎ
3. 議論内容の継承
4. 来年度以降の不祥事対策
5. その他全体的改善

文責:馬場秀司(京大人環・素粒子・M2)

## 6 繰越金問題(改訂版)[京都大学]

2002年三者センター校の京都大学では、この問題について議案提出後も援助団体のスタッフの意向を聞いたり、内部で今後の方針を議論したりしてきた。その結果、議案を提出してから夏の学校三者総会までの間に、繰越金問題に対する対処方法を当初提出していた議案とは大幅に異なったものに方向転換することになった。

以下の訂正版は、三者総会で示した京都大学の方針を総会終了後に議案書の形に焼き直したものである。

## 6.1 繰越金の適正金額

まず初めに、三者若手の繰越金額の適正金額について共通見解を作っておきたい。これは、総会における以後の議論を明確にすること、および援助団体に事情を説明する際に三者若手側の繰越金の適正金額に関する共通見解を示せた方がよいと思われるためである。また、このような共通見解を作っておくことは今回のような事態の予防にもなる。

京都大学では

- 三者若手の繰越金適正金額は 100 万～150 万円程度

という金額を提案する。

理由は以下のとおりである。

- 三者若手の年間予算が約 200 万円<sup>1</sup>であり、この金額より多額を保持していても無意味かつ危険。また、援助団体の理解を得るのも困難。
- ホテルの前金 (2001 年は 10 万円) 等、三者若手を運営する際の運営資金にあてるための繰越金が数十万円のオーダーで必要。
- 現在、三者若手は一団体あたり 50 万円程度の規模で二団体から援助を受けているが、この援助金額は決して安定しているわけではない。援助を受けられなくなった場合などに、数年オーダーで安定した運営を行うためには、100 万円程度の繰越金はあった方がよい。
- 100 万～150 万円という繰越金額であれば、対外団体からの理解も得られそうである。

議題：三者若手予算の繰越金適正額は 100 万～150 万円程度である。

## 6.2 繰越金の存在の公表

京都大学では、この問題に関する援助団体の意向を伺うべく幾らかのスタッフの方と連絡を取ってきた。ところが、素 G の若手ワーキンググループのスタッフの方に連絡を行った際、京大側の不手際により、

「あくまでも京都大学独自の調査として、素 G のスタッフに個人的に話を聞いたかった。」

という意向をうまく伝えることができず、

「三者若手の総意として、素 G に正式な問い合わせが行われた。」

---

<sup>1</sup>ただしホテル代まで含めると約 1000 万円。

ものと受けとられてしまった。このため、繰越金問題は素粒子論委員会の場で議論されることになり、現在援助団体のかなり多くのスタッフの間でこの問題が知られてしまっている状況にある。

このため、改訂前の議案書で承認事項としてあげた、「繰越金の存在を援助団体に対し全額公表すること」という議題は現時点で事実上すでに公表されてしまっている状況にある。そこで、この項目については事後承認という形で承認して頂きたい。

議題：「繰越金の存在を援助団体に対して事実上公表してしまったこと」に対する事後承認および今後は繰越金の公表を三者若手の総意として積極的に行っていくこと。

なお、今回の件で迷惑をかけた皆様（特に2001年役職校<sup>2</sup>の関係者の方）には深くお詫び致します。

### 6.3 今後の方針

援助団体の意向を聞いてきた結果、以前提出した議案のような方針では援助団体の理解が得られそうにないことが分かった。

そこで、今後の援助団体との交渉における基本姿勢を当初の議案書のものから以下のように変更することを提案する。

まず、

- 今年は基研、素 G への援助申請は行わない

ことにする。ただし、今回の件の謝罪と事情説明は積極的に行い、これらの団体との関係を今後も維持できるよう最大限努力する。

このような方針に変更するのは、従来の方針では援助団体の理解が得られそうにないということ以外に、(1) 三者若手が犯した過失のけじめをきちんと付けるべきであること、(2) 本来過去の若手構成員に渡されたはずの援助金を我々が使うのは不合理であること、(3) また、来年については援助を行わなくても繰越金によって不足分を補填すれば例年通りの予算を得ることができること、等の理由から、より積極的に申請を行わない方が良いという判断に至ったからである。

援助を行わないことによる収入不足は、

- 2002年の収入不足分100万円には繰越金をあてる

---

<sup>2</sup>中でも、三者センター校大阪大学

ことで相殺する。これにより、2002年夏の学校後には繰越金額は180万円まで減額され、適正額に近づけることができる。2003年も援助申請を控える方針にするなら、2年後には繰越金を適正額に戻すことができ、3年後からは援助申請を従来通り行うことができるようになる。ただし、

- 2003年の方針については、現時点では決めない

ことにする。今後の援助団体との交渉がどのように進むかが極めて不透明であり、現時点で2003年の方針を決めても実質的に無意味だからである。

また、

- 上に掲げたことはあくまでも方針であり、今後の交渉次第で事情はいくらでも変わりうること

を了承頂きたい。

議題：今後の援助団体との交渉および繰越金の減額方法として、

- 今年は基研、素Gへの援助申請は行わない。ただし、例年援助申請を行っている場には出向き、事情説明のための発表は行う。
- 2002年の収入不足分約100万円には繰越金をあてる。これにより、2002年の夏の学校終了後には繰越金は180万円まで減額される。
- 2003年以降のことは、現時点では決めない。

の三点を基本方針としていくこと。なお、この項目はあくまでも方針であるため、議決ではなく承認を頂きたい。

(文責：北澤 正清 / 京都大学)

## 7 繰越金問題 (改訂前)[京都大学]

### 7.1 概要

現在、原子核三者若手には約280万円の繰越金が存在する。この繰越金の存在は、基礎物理学研(以下基研)や素粒子論グループ(以下素G)での援助申請等の公の場では公表されていない。

このことにより、三者若手の予算運営は現在、以下で述べるような幾つかの問題を抱えている。2002年三者センター校<sup>3</sup>である京都大学では、この問題を解決するため、以下の議案を提出する。

なお、以下「公表する」と言った場合、主に三者若手の援助団体である、基研および素Gに対する援助申請での報告を指す。

## 7.2 現状の問題点

まず、現在のような前年度繰越金を援助団体に対して公表していない(決算報告に繰越金が明記されていない)予算運営形態では、

- 過去5年以上の期間にわたって、毎年20万円以上のペースで繰越金がたまり続けてきてしまった事実をみても、三者若手の内部のみの会計監査技術では繰越金の増加を抑えることは極めて困難である。
- 現時点でも、約280万円という三者若手の予算規模からすれば多額の繰越金がたまっている。

という問題があり、決算報告に繰越金を明記することは急務である。

しかし、280万円という繰越金額がすでにたまっている現状でこの金額を一気に公開した場合、

- 援助団体から、援助金の打ち切り、もしくは削減等の処置を取られる

おそれがある。なお、各援助団体からの援助金額は、2001年の実績で

基研：60万円(講師旅費補助50万円、印刷費10万円)

素G：45万円

である。280万円の繰越金はこの援助金額に対してもかなり多額であり、一気に公表する場合、援助の打ち切り、もしくは削減をされてしまう可能性は十分にある。

また、実際に280万円という繰越金がたまっている現状では、

---

<sup>3</sup>三者センター校は、外部団体との交渉、窓口を担当している。

- 今後の、三者若手内部における具体的な繰越金の使い道 (削減方法)

を考えていかななくてはならない。

### 7.3 提案

これらの問題に対し、2002年三者センター校では、以下のような対処を提案する。

全額を公表する。

繰越金が存在しない決算報告は明らかにおかしいので、このような予算運営形態は一刻も早く改善する必要がある。そこで、2002年センター校は、

- 2002年分の援助申請の場で、繰越金を全額公表すること

を提案する。

繰越金の存在を一気に全額公表することにより、援助団体に与える衝撃が大きくなり援助金を削減される可能性が高くなることは否めない。しかし、例えば数年間かけて水面下で繰越金を削減したあとで公表するといった案は、援助団体に知られたときに取り返しが付かなくなる恐れがあること、および引き継ぎがよい加減な現在の若手の運営において多年度にわたる長期計画を遂行することの困難さから、非現実的と思われる。

よって、単年度で全額公表してしまうことが最も健全であるといえよう。

例年通りの援助金額を申請する

多額の繰越金を明るみに出す場合には、援助団体に対する援助金の申請額は減らした方がいいのかもしれない。

しかし、現状でも夏の学校の旅費補助はまるで不足していること、また、一度減額をされると、数年後に繰越金を使い切ったのちもとの金額に戻してもらったときの困難さが予想されることなどの理由から、

- 援助団体に対しては、例年通りの金額を申請することにする。

## 繰越金の使い道

繰越金は、

- 2001年、および2002年～2004年の四年間にわたり、毎年40万円ずつを夏の学校の旅費補助として使う

ことを提案する。

これにより、2004年の夏の学校終了後には繰越金が約120万円まで減らされることになる。120万円の繰越金ということであれば、三者若手の運営規模としては少なくとも現在の金額と比べて健全な繰越金額といえるであろう。

一年あたりにこれ以上多額の旅費補助を出すことは、前後年に不公平感を与えかねない。また、これ以上の長期計画を立てることは、引き継ぎがずさんな現在の若手活動においては実質無意味と思われる。

参考：旅費補助を40万円増やすと...

- 夏の学校参加者が300人とすると、一人平均で約1,300円の増額。
- 例年の旅費補助は約100万円であり、約40%の増額。

なお、上記の補助金額は、援助団体の意向、援助金額によっては今後増減する可能性がある。その場合は、物理学会の三者総会で訂正案を議案として提出する。

## 7.4 承認事項

2002年センター校京都大学では、以下の事項の承認を要求する。

1. 繰越金の存在を援助団体に対し全額公表する。
2. 2001年夏の学校の旅費補助として、繰越金を財源に40万円を追加で使う。
3. 2002年～2004年の三年間にわたり、繰越金を財源に各年40万円を旅費補助として使う。

## 7.5 最後に：アンケートご協力をお願い

援助申請の場で、「夏の学校の旅費補助はかなり不足している」現状を具体的に説明するため、2002年センター校では今年の夏の学校で、旅費補助に関するアンケートを行います。

このアンケートへの皆様の御協力をお願いします。

(文責：北澤 正清 [masky@ruby.scphys.kyoto-u.ac.jp](mailto:masky@ruby.scphys.kyoto-u.ac.jp) / 京都大学)